



『大大阪と呼ばれたころ』

常翔学園の淵源である「関西工学専修学校」が創設された当時の大阪市は「大大阪 (GREATER OSAKA)」と呼ばれ、商業、紡績、鉄鋼、交通などの産業が発展し、モダンな建築物が立ち並ぶ華やかで活気あふれた黄金時代でした。この時代の大阪について、今号・次号の二回にわたって紹介します。今号では、大大阪時代に誕生した「産業」や「代表的な建築物」について、次号では、大大阪時代の「交通」について、それぞれ紹介します。

1. 「大大阪 (GREATER OSAKA)」とは？

1925年、大阪市は第二次市域拡張で隣接する東成、西成の両郡を編入したことにより、人口は200万人を超えます。これにより面積・人口ともに日本一、そしてパリにつぐ世界第6位の都市になりました。この時代に、第7代大阪市長 關 一 (1873-1935) らにより、大規模な都市計画事業が実施されたほか、街路拡幅の一環で御堂筋や日本初の公営地下鉄の建設、築港整備など、現在も使われているインフラの整備も進められました。

2. 近代的産業のおこり ～新ビジネス・商品の誕生～

大大阪時代には、現在も続いている多くの新ビジネス・商品が誕生しています。

まず、「大丸」「十合」「高島屋」などの百貨店が誕生します。当初は高級呉服などを主に取り扱っていましたが、第一次世界大戦以後は、食料品や日用器具・雑貨などの多様な商品を取り扱うようになります。これにより、従来の『呉服店』から名実ともに『百貨店』へと姿を変えていきます。

ちなみに、現在建て替え工事中の「大丸心齋橋店本館」は、著名な建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ (1880-1964) が手がけたこの時代の名建築で、大阪を代表する大正モダンの建築物です。

家電メーカーの「パナソニック」「シャープ」が誕生したのもこの時代です。

パナソニックは、松下幸之助が1918年に大開町 (大阪市福島区) に創業した「松下電気器具製作所」に始まります。二灯用クラスター (二股ソケット) などの商品を開発、事業拡大にともない門真に本社工場を建設し、今日にいたります。



【写真上】大丸心齋橋店本館外観
【写真下】大丸心齋橋店本館内装
※いずれも建て替え工事前に撮影

シャープは、シャープペンシルを考案した早川徳次が創業しました。関東大震災でシャープペンシル事業などすべてを失いましたが、大阪市阿倍野区で「早川金属工業研究所」として再出発しました。

この他にも「グリコ」「ヤンマー」などもこの時代に創業されています。

また、新商品としては、1923年に**鳥井信治郎**（1879-1962）が巨費を投じて、京都・大阪府境の山崎に蒸留所を建設し、本格国産ウイスキー第一号の「サントリーウイスキー白札」を製造します。これにより日本人の間にウイスキーを飲む習慣が定着しました。鳥井はまた、この山崎蒸留所にNHK連続テレビ小説「マッサン」のモデルとなったニッカウイスキー創業者の**竹鶴政孝**（1894-1979）を技術者として招いたことでも知られています。

「神戸屋」を創業した**桐山政太郎**が、**パンの量産化**に成功したのもこの時代です。これまでレストランやカフェでしか食べられなかったパンが一般家庭でも食べられるようになり、洋風のライフスタイルが定着していくこととなりました。

これら現代にもつながるビジネス・商品が大阪の地に多く誕生したのも、この時代です。

3. 大大阪時代の建築 ～モダン都市・大阪の誕生～



【写真上】現在の中之島

【写真下】左：新井ビル、右：難波橋

いる「新井ビル」は、洋風建築のお洒落な建物として、ガイドブックにも掲載されるほど広く知られています。

そのなかでも、中之島の三休橋筋界隈は、街路樹やガス灯の整備、電柱の地中化などにより、大大阪時代のモダンな建築物を当時の状況に近い状態で楽しむことができます。

当時の大阪に思いを馳せながら散策されてはいかがでしょうか。

常翔歴史館では、学園創設期から今日までの「学園のあゆみ」を、写真や展示物などを通して紹介しています。

① 開館時間：月曜日～金曜日の 11:00～17:00

② 問い合わせ先：常翔歴史館事務室（内線／大宮 801-7762）

【参考文献】①大阪の教科書（橋爪紳也監修、創元社編集部編）

②映画「大大阪観光」の世界 昭和12年のモダン都市（橋爪紳也編著、大阪大学出版会）

2016.3.23